

佐田白茅 （はくぼう） 漢詩人、政論家。天保二年十一月十日筑後國久留米  
 生れ、明治四十年十月四日歿（八三—一九〇七）。諱直寛、通稱素一郎。  
 別號大來、胤放。嘉永五年昌平坂學問所に學び、歸郷後の安政六年、  
 久留米藩實明善堂専長となる。文久二年尊攘運動に關はり幽閉。維新  
 後新政府に出仕して徴士の擧げられ、明治二年朝鮮公使す。翌年征韓  
 の建白書を提出した。爾後下野して文筆に従事、また大來社を興して  
 漢詩文誌『明治詩文』（第一集・明治九年九月出版届、十一月創刊、  
 大來社）を發刊。晩年史談會を設けて幹事となる。

著『極論開化』（明治八年四月忠芬義芳樓藏版、柏原喜兵衛・岡田文  
 助刊、編『近世文體』全二冊（明治十年十一月山梨・内藤書屋）、編  
 『大來社叢書新評』（第一編・明治十一年四月大來社）、編『學校  
 事文格』（明治十一年十一月小引、大來社）、編選『續近世文體』全  
 二冊（大來社評解、明治十二年二月内藤博右衛門出版）、著『國體』  
 覽（兼習字本）』（長三洲書、明治二十四年八月自刊、吉川半七發賣）  
 等がある。

